

グラフィック処理による駄ノ塚古墳の 鳥瞰図作成とそのシステム

八重樫 純 樹

-
- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. はじめに | 4. 鳥瞰図作成システムと作図例 |
| 2. システムの全体概要 | 5. ま と め |
| 3. 半自動グラフィックデータ作成処理
(R/V変換) | |
-

論文要旨

本論は、1985年度～1986年度（昭和60年度～昭和61年度）本館特別研究「古代東国の地域的特性—東国古墳の地域的特性—（代表；本館考古研究部白石太一郎教授）において研究発掘調査を行った、千葉県成東町・駄ノ塚古墳の復元をもとに、グラフィック処理による歴史的な資料、遺跡等への今後の可能性、問題点を探るため行った試みである。

1章においては、その課題、目的を示し、2章では本研究実験の全体過程と、用いたコンピュータシステムおよびグラフィックソフトの概要を、3章ではグラフィックデータ（ベクターデータ）の作成過程と各種問題点を、4章では3次元復元のための幾何学座標系の考え方とこれらを用いた復元システムの内容を示し、5章では全体的問題点、本試みを通じたグラフィック処理の今後の歴史的資料、遺跡等への復元、分析、シミュレーション等への高い応用可能性について示すものである。

また、本システムにおける全体過程を1992年3月～5月に企画展示「科学の目で見る文化財」において展示した。これらの資料をもとに、本論内容の補足と展示への可能性、問題点等について付録資料として示した。